

平成 25 年度研究成果情報

課題名：大浦地先における地ガキの採苗試験

[背景・ねらい]

佐賀県太良町大浦地先では、宮城県産種苗を用いたマガキの垂下養殖が平成13年から行われているが、8～9月にかけて高水温などが原因と思われる大量斃死がしばしば発生し、生産は不安定となっている。

大浦地先の潮間帯には、宮城県産種苗と比較して高水温耐性が高いと思われる地ガキが生息している。今後、養殖用種苗として地ガキを活用していくために、まず地ガキの効率的な採苗手法を検討した。

[成果]

採苗試験は、図1に示す潮間帯(地点①②)と沖合の養殖筏(地点③)において、平成 23～25 年度にかけて表 1 のとおり実施した。

- (1) 潮間帯の海側に近い地点②では、6月下旬から8月上旬にかけてカキ類の付着が多数みられたこと(図2、3)、養殖筏(地点③)に比べフジツボ類の付着が少なかったこと(図3、4)から、採苗に適した場所と思われた。
- (2) 養殖筏(地点③)では、フジツボ類の付着量が多く、採苗に適さないことが明らかとなった(図4)。
- (3) 採苗適地と想定された地点②において、シングルシード化が容易なフランス式採苗器(クペール)を用いて採苗したところ、ホタテ殻同様にカキ類の付着が多数みられた(図5)。

本試験により、大浦地先における地ガキの採苗適地および適期が明らかとなった。

[課題・問題点]

採苗した地ガキの養殖用種苗としての生長性、収穫性および高水温耐性などの適性が把握できていない。

[今後の対応]

クペールを用いて採苗した地ガキをタンブラー式垂下養殖器材等で養殖し、成育状況を把握することにより、養殖用種苗としての適性を把握する。

[その他]

研究期間：平成 23～25 年

研究担当者：普及担当 古川泰久

表1 採苗器設置場所および採苗器の種類

	地点①	地点②	地点③
平成23年	○	-	○
平成24年	○	○	-
平成25年	-	◎	-

○: ホタテ殻のみ
 ◎: ホタテ殻、クペール
 -: 無し

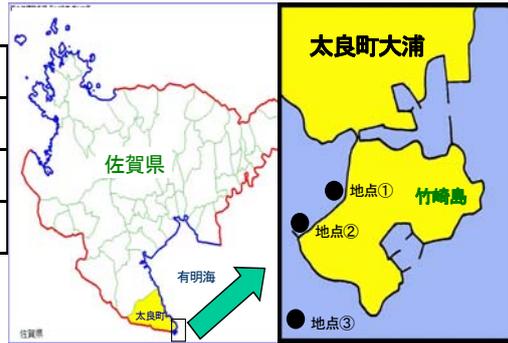


図1 採苗試験地点

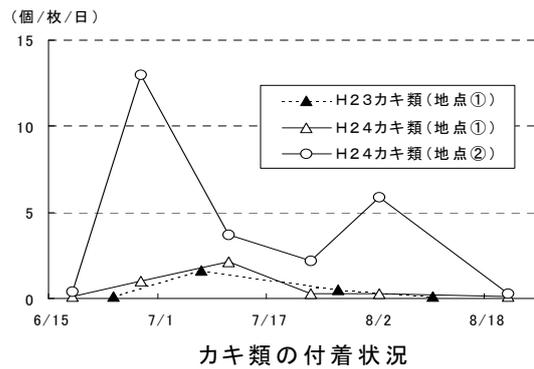


図2 カキ類の付着状況



図3 ホタテ殻による採苗状況 (地点②)



図4 ホタテ殻による採苗状況 (地点③)



図5 クペールによる採苗状況 (地点②)

表1 採苗器設置場所および採苗器の種類

	地点①	地点②	地点③
平成23年	○	-	○
平成24年	○	○	-
平成25年	-	◎	-

○:ホタテ殻のみ
◎:ホタテ殻、クペール
-:無し

表1 採苗器設置場所および採苗器の種類

	地点①	地点②	地点③
平成23年	○	-	○
平成24年	○	○	-
平成25年	-	◎	-

○:ホタテ殻のみ
◎:ホタテ殻、クペール
-:無し